

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成23年度 実施計画書

### 1. 拠点機関

日本側拠点機関：	聖路加看護大学
タンザニア拠点機関：	ムヒンビリ健康科学大学

### 2. 研究交流課題名

(和文)：タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成  
(交流分野： 母性看護・助産学 )

(英文)：Sustainable development of novice researchers who will contribute evidence based midwifery for the promotion of maternal child health in Tanzania  
(交流分野： Maternal Infant Nursing & Midwifery)

研究交流課題に係るホームページ：

<http://www.ap.slc.ac.jp/mt5/asia-africa-jp/>

### 3. 採用年度

平成23年度（1年度目）

### 4. 実施体制

#### 日本側実施組織

拠点機関：聖路加看護大学

実施組織代表者（所属部局・職・氏名）：学長・井部俊子

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：母性看護、助産学・教授・堀内成子

協力機関：

事務組織：聖路加看護大学事務局

#### 相手国側実施組織（拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。）

(1) 国（地域）名：タンザニア ダルエスサラーム

拠点機関：(英文) Muhimbili University of Health and Allied Science (MUHAS)

(和文) ムヒンビリ健康科学大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

(英文) School of Nursing・Professor・Sebalda Leshabari

協力機関：(英文) Tanzania Midwives Association

(和文) タンザニア助産協会

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

タンザニアでは妊産婦死亡率が非常に高く、産科医療のアクセス・質の低さに関する問題が山積している。母子保健問題の改善という緊急性の高い社会的なニーズに対応すべく、母子保健を専門に研究教育活動ができる若手研究者の育成が急務であり、助産学専門の修士課程の設立が強く求められている。本研究交流では、「アジア・アフリカ助産研究センター」という共同研究拠点を形成し、交流を通して東アフリカ初となる助産学専門の修士課程をタンザニア・ムヒンビリ健康科学大学に設立する。

タンザニアと日本の助産教育の理念は、「エビデンスに基づいた安全な自然分娩を促進する」点において共通している。日本の助産高等教育は、聖路加看護大学大学院看護学研究科において、1983年度より修士課程が設けられており、助産学の教育者および研究者を数多く輩出してきた実績がある。本研究交流では、日本の持つ知識、人材や経験を移転するだけでなく、タンザニアの健康問題に合ったカリキュラム編成を行う。タンザニア国内で助産学専門の大学院教育を確立することによって、タンザニア人助産師が自国の保健問題改善に向け活動できる能力を育成し、タンザニアの母子保健分野の自立発展性を高めることを目指す。

またセミナー等学会会合を通し、設立する大学院修士課程の教員、助産師学校の教員グループや臨床現場の助産師にも学びの場を提供する。また日本の助産高等教育においても、助産師が国際的な視野を持ち、活動を展開する能力を養うことを目標としている。本研究交流で、日本人の若手研究者が国際的な活動の場やネットワークを広げ、今後共同研究などを行う基盤を作ることを目標としている。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 23 年度から開始

## 7. 平成 23 年度研究交流目標

### 【研究協力体制の構築】

アジア・アフリカ助産研究センターを立ち上げ、ムヒンビリ健康科学大学との研究協力体制を構築する。日本側、タンザニア側の参加研究者同士の交流を通し、今後の研究活動に向けて信頼関係を築き、共通の目標を確認する。

### 【学術的観点】

タンザニアの若手研究者の学術面での人材育成を目的とした修士カリキュラムと評価基準を作成し、カリキュラム施行後に評価研究を行う基盤を形成する (R-1)。また、聖路加看護大学で修士課程を修めたタンザニア人若手研究者の研究活動の発展させるため、本学修士課程で行ったタンザニア都市部で行われた思春期学生への性教育プログラムを発表し、その後農村地区に応用した比較研究を行う準備を始める (R-2)。

### 【若手研究者養成】

国際助産師連盟（ICM）南アフリカ大会と聖路加看護大学においてセミナー・交流事業を行い、日本・タンザニア両国の若手研究者に対して相手国研究者との交流の機会と両国の助産教育と実践、共同研究について学ぶ機会を設ける。タンザニア側には、日本の教育機関における修士課程の視察、日本人研究者の講義を受ける機会及び発表の機会を設ける。

### 【課題独自の今年度の目標】

本研究交流の初年度として、共同研究・セミナー・交流を通し、両機関研究者の理解と信頼を深めるとともに、ムヒンビリ健康科学大学における助産修士課程の次年度開設を目指して事業基盤を形成する。また、日本、タンザニア両国の若手研究者が、交流研究活動を通し、研究者に必要なコンピテンシーを高めるための学びの機会を設ける。

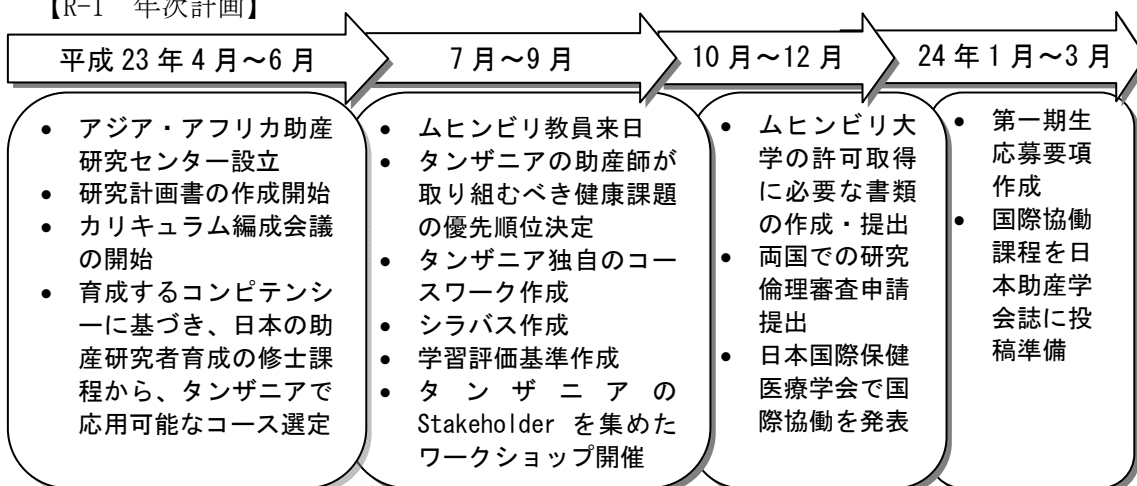
## 8. 平成23年度研究交流計画概要

### 8-1 共同研究

#### 『R-1 タンザニアの助産若手研究者育成カリキュラム作成と評価』

来年度の修士課程発足に向け、カリキュラム作成と許可申請を行う。

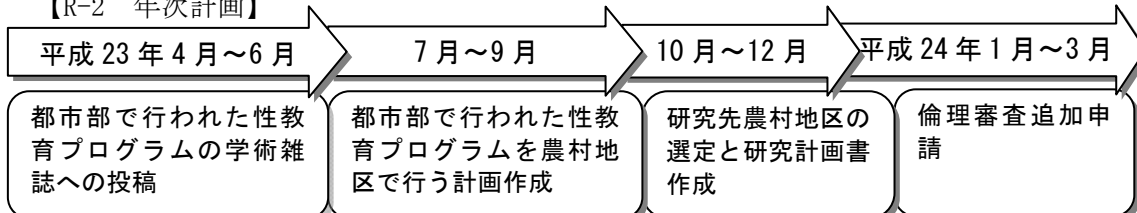
#### 【R-1 年次計画】



#### 『R-2 タンザニアの思春期男女への性教育プログラムの評価：都市部と農村部の比較』

R-1で作成するカリキュラムに農村地区での教育演習を組み込むため、タンザニア都市部で行われた思春期男女に対する性教育プログラムを農村部へ展開するよう倫理審査の追加申請、実施する農村地区の選定、計画書作成等の準備を行う。

#### 【R-2 年次計画】



## 8-2 セミナー

日時 (会場)	題目	基調講演	内容
6月28日 (聖路加看護大学)	S-1 アジア・アフリカ助産研究センター・国際研究交流セミナーシリーズ ①タンザニアでの助産教育、実践、研究の紹介	タンザニア ムヒンビリ健康科学大学 セバルダ・レシヤバリ教授他	タンザニアの助産教育、実践、研究の現状と、今後の大学院教育による若手助産研究者の育成の必要性を示す。
7月11, 13日 (聖路加看護大学)	S-2 アジア・アフリカ助産研究センター・国際研究交流セミナーシリーズ ②研究者に必要なコンピテンシーと教育課程	米国ラトガース大学看護学部 ウィリアム・ホルツマー学部長	研究者としてのコアコンピテンシーと、それを育むための教育カリキュラム（アカデミックな研究の組み立て方、論文の書き方など）を確認する。
7月14日 (聖路加看護大学)	S-3 アジア・アフリカ助産研究センター・国際研究交流セミナーシリーズ ③アジア・アフリカ助産研究センター共同プロジェクトのアクションプランとその評価	タンザニア ムヒンビリ健康科学大学 セバルダ・レシヤバリ教授他	共同カリキュラム編成会議の成果、セバルダ教授が日本で大学院教育や産科施設を見学した経験を基に、タンザニア助産修士課程共同作成のアクションプランを発表し、アドバイザーボードから評価を受ける。

※セミナーシリーズ①～③(S-1, S-2, S-3)は、タンザニアから2名一度の招聘でまとめて行う。

## 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

日時	人材派遣	交流内容
6月19～23日 (ICM 南アフリカ大会)	聖路加看護大学より新福洋子（博士研究員）、ムヒンビリ大学よりセバルダ・レシヤバリ	世界の助産研究者の集う国際助産師連盟3年毎大会において、本事業によるアジア・アフリカ助産研究センターの発足を発表する。タンザニアの若手助産研究者育成を目的とした日本・タンザニア共同プロジェクトの概要を明らかにし、世界各国の研究者へ意見を求め、プロジェクトの質的充実を図る。
6月26日～7月15日	ムヒンビリ大学より、セバルダ・レシヤバリ教授他1名	聖路加看護大学の大学院教育見学、講義参加、産科施設見学。以下の日本側研究者の講義を受ける。 松谷美和子・・・看護教育カリキュラム 江藤宏美・・・助産カリキュラム 長松康子・・・国際保健 小黒道子・・・女性を中心としたケア 毛利多恵子・・・人間性あふれる助産ケア 堀内成子・江藤宏美・片岡弥恵子・八重ゆかり ・・・EBNのグループワーク
9月末～10月中旬	ムヒンビリ大学より、若手研究員2名	聖路加看護大学の大学院教育見学、講義参加、産科施設見学と、同上の講義を受ける。 日本滞在の成果と、研究者としての今までとこれからの活動内容の発表。

## 9. 平成23年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	南アフリカ 〈人／人日〉	〈人／人日〉	〈人／人日〉	合計
日本 〈人／人日〉			1/7 (1/7)			1/7 (1/7)
タンザニア 〈人／人日〉	6/70 (1/2)		1/7			7/77 (1/2)
アメリカ 〈人／人日〉	1/2					1/2
〈人／人日〉						
〈人／人日〉						
合計 〈人／人日〉	7/72 (1/2)		2/14 (1/7)			9/86 (2/9)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人・日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

3/3	〈人／人日〉
-----	--------

## 10. 平成23年度研究交流計画状況

### 10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成23年度	研究終了年度	平成25年度
研究課題名	(和文) タンザニアの助産若手研究者育成カリキュラム作成と評価 (英文) Curriculum development and evaluation of novice midwifery researchers in Tanzania				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 堀内成子・母性看護、助産学・教授 (英文) Shigeko Horiuchi, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Sebalda Leshabari, School of Nursing, Professor				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先	日本	タンザニア		計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本 <人/人日>				
	タンザニア <人/人日>	2/20			2/20
	<人/人日>				
	合計 <人/人日>	2/20			2/20
	② 国内での交流 1/1 人/人日				
23年度の研究交流活動計画	タンザニアを含めた東アフリカで初となる助産学修士課程を設立するため、そのカリキュラムを共同作成する。研究者として育成すべきコンピテンシーを基に、日本の助産研究者育成の修士課程からタンザニアで応用可能なコース選定し、ムヒンビリ教員と共同でタンザニアの助産師が取り組むべき健康問題に優先順位をつけ、それに沿って必修・選択授業を作成する。同時にシラバスと学習評価基準を作成し、次年度以降の評価研究の基盤を形成する。その後、タンザニア側研究者は自国でワークショップを開催し、作成したカリキュラムをタンザニア助産教育に関わる Stakeholder (厚生省担当、他大学の助産教員、カリキュラム認定に関わる人物等) に示し、意見をもらい、必要時修正する。来年度開始に向け必要な申請書を大学側に提出し、許可を得るための手順を踏む。				

期待される研究活動成果	<p>①研究者に必要なコンピテンシーに基づき、日本の助産研究者育成の修士課程から、タンザニアで応用可能なコースが選定される。</p> <p>②タンザニアの助産領域の健康問題に対応した、ムヒンビリ健康科学大学の助産修士課程の必修・選択授業とそのシラバスが作成される。</p> <p>③授業の学習評価基準が作成される。</p> <p>④作成されたカリキュラムがタンザニアの助産教育に関わる Stakeholder によって吟味され、意見をもらい、了承を得ることで、カリキュラムがタンザニア初の助産修士課程として認定されるプロセスを促進し、将来的にそのカリキュラムで育成された若手研究員が、修士課程修了生としてキャリアを形成できるよう基盤を形成する。</p>
日本側参加者数	
6 名	(13-1 日本側参加者リストを参照)
(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数	
5 名	(13-2 タンザニア側参加者リストを参照)

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 23 年度	研究終了年度	平成 25 年度
研究課題名	(和文) タンザニアの思春期男女への性教育プログラムの評価：都市部と農村部の比較				
	(英文) Sex education program for adolescent boys and girls in Tanzania: A comparative study between city and rural areas				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 堀内成子・母性看護、助産学・教授				
	(英文) Shigeko Horiuchi, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	Sebalda Leshabari, School of Nursing, Professor				
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流				
	派遣先 派遣元	日本 <人/人日>	タンザニア <人/人日>	<人/人日>	計 <人/人日>
	日本 <人/人日>				
	タンザニア <人/人日>	(1/2)			(1/2)
	<人/人日>				
	合計 <人/人日>	(1/2)			(1/2)
	② 国内での交流 0/0 人/人日				
23年度の研究交流活動計画	<p>R-1 のカリキュラムに農村地区での教育演習を組み込むこと、その内容を R-1 のカリキュラム編成会議で確認する。同時に、聖路加看護大学修士課程助産学専攻の修了生によりタンザニア都市部で行われた思春期男女に対する性教育プログラムを、本研究交流日本側コーディネーターと修了生が学術誌に英文投稿し、発表する。</p> <p>農村地区での教育演習として、農村地区の思春期男女に都市部で行われた性教育プログラムを応用するため、今年度は倫理審査の追加申請、プログラムの修正・変更、実施する農村地区の選定、計画書作成等の準備を行う。</p> <p>本年度の活動を通し、次年度から開始されるムヒンビリ健康科学大学助産修士課程の中で、学生による農村地区での教育演習の実現可能性、実行時の注意点などを探索する。共同研究として最終的には都市部と農村部の比較を行うことを目指す。</p> <p>※R-1 で来日時 2 日を R-2 の話し合いに使う為、R-2 として費用計上せず。</p>				

<p>期待される研究活動成果</p>	<p>①本研究交流の背景として、タンザニア（特に農村部）の高い妊産婦死亡率がある。特に若年層の望まない妊娠での中絶や出産による死亡が大きな問題のひとつとなっており、それを防ぐためには、思春期からの正しい性教育が不可欠である。将来的に本研究交流が立ち上げる修士課程のプログラムの一環として、農村地区で性教育演習を行うことを想定しており、この研究交流による利益がムヒンビリ大学教員や学生にとどまらず、タンザニアの中で最も健康指標の悪い農村地区に対しても広がることにつながることを期待できる。本年度はそのための研究準備を行い、基盤を形成する予定である。</p> <p>②聖路加看護大学修士課程修了生も共同研究に対し、データ収集の協力や専門知識の提供を行うことで、研究者のコンピテンシーを高める研究経験を積むことができる。</p> <p>③日本側若手教員も本研究に参加することで、国際看護研究の経験を深める。</p>
<p>日本側参加者数</p>	
<p>3 名</p>	<p>(13-1 日本側参加者リストを参照)</p>
<p>(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数</p>	
<p>1 名</p>	<p>(13-2 タンザニア側参加者リストを参照)</p>

10-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 タンザニアでの助産教育、実践、研究の紹介
	(英文) JPSP AA Science Platform Program Introducing Midwifery education, practice, and research in Tanzania
開催時期	平成 23 年 6 月 28 日 ~ 平成 23 年 6 月 28 日 (1 日間)
開催地 (国名、都市名、 会場名)	(和文) 日本、東京、聖路加看護大学
	(英文) Japan, Tokyo, St. Luke's College of Nursing
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 堀内成子・母性看護、助産学・教授
	(英文) Shigeko Horiuchi, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ( 日本 )	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	
	B.	
	C.	8/8
タンザニア 〈人/人日〉	A.	
	B.	2/2
	C.	
合計 〈人/人日〉	A.	
	B.	2/2
	C.	8/8

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

セミナー開催の目的	<p>相手国機関ムヒンビリ健康科学大学助産学教授であり、タンザニア助産協会の事務総長であるセバルダ・レシャバリ博士から、タンザニアの助産教育、実践、研究の現状と、今後の大学院教育による若手助産研究者の育成の必要性についての講演をしてもらい、日本の教員がカリキュラム作成の援助をする上での基礎知識を得る。また、国際助産に興味のある研究員、院生や学生も参加し、日本側の若手研究者に対する国際協働の実態を学びの機会を与える。</p>	
期待される成果	<p>①参加研究者がタンザニアの母子保健状況、特に助産教育、実践、研究の現状について、タンザニアの助産の教授から直接知識を得る貴重な機会となる。</p> <p>②日本の若手研究者がタンザニアの母子保健状況、特に助産教育、実践、研究についてタンザニアの助産の教授から直接知識を得る貴重な機会となる。また、研究者の行う先進的な国際協働活動の実際を学ぶことができる。</p>	
セミナーの運営組織	聖路加看護大学参加研究員、事務局	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	<p>内容 その他経費（印刷費・交流会費） 金額 100,000 円</p> <p>謝金（資料作成協力等） 10,000 円</p>
	タンザニア側	<p>内容 金額</p>

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 研究者に必要なコンピテンシーと教育課程
	(英文) JPSP AA Science Platform Program Competencies of researchers and its educational program
開催時期	平成 23 年 7 月 11 日 及び 平成 23 年 7 月 13 日 (2 日間)
開催地 (国名、都市名、 会場名)	(和文) 日本、東京、聖路加看護大学
	(英文) Japan, Tokyo, St. Luke's College of Nursing
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 堀内成子・母性看護、助産学・教授
	(英文) Shigeko Horiuchi, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	

#### 参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ( 日本 )	
	A.	
日本 〈人/人日〉	A.	
	B.	
	C.	7/14
タンザニア 〈人/人日〉	A.	
	B.	2/4
	C.	
アメリカ 〈人/人日〉	A.	1/2
	B.	
	C.	
合計 〈人/人日〉	A.	1/2
	B.	2/4
	C.	7/14

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>米国ラトガース大学看護学部学部長ウィリアム・ホルツマー氏を招聘し、同氏が経験してきた国際共同研究、日本、米国での大学院生教育を踏まえ、教育研究者育成に必須のカリキュラム（アカデミックな研究の組み立て方、論文の書き方など）についての提言をもらい、研究者としてのコアコンピテンシーを確認する。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>①アジア・アフリカ助産研究センター事業として今後タンザニアの助産修士カリキュラム作成に関わる研究者（日本・タンザニア両国の中心研究者が参加）が、グローバルな大学院教育の基準を学ぶ機会となり、今後のカリキュラム作成における重要なコンピテンシーの基準を設けることができる。</p> <p>②タンザニア側にとっては初めての助産修士課程設立となるため、タンザニア側研究者がホルツマー氏の経験から学ぶことで、自国の教育課程・健康問題に合う大学院教育創設という課題に、具体的なイメージを持つことができる。</p> <p>③現在大学院教育を受けている院生にとっても、世界の大学院教育のレベルを知る機会となり、研究者としてのコンピテンシーに基づき、自らが課程在籍中に更に発展させるべき能力について考える機会となる。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>聖路加看護大学参加研究員、事務局</p>	
<p>開催経費 分担内容 と概算額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 海外渡航費 金額 750,000 円 (学内規定により航空運賃はエコノミーの正規料金を上限として支給)</p> <p>謝金 110,000 円 (学内規定により教授クラス1日5万円×2回=10万円+資料作成協力等1万円)</p>
	<p>タンザニア側</p>	<p>内容 金額</p>

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 アジア・アフリカ助産研究センター共同プロジェクトのアクション プランとその評価
	(英文) JPSP AA Science Platform Program The action plan and evaluation of the collaborative project at the Center of Asia Africa Midwifery Research
開催時期	平成 23 年 7 月 14 日 ~ 平成 23 年 7 月 14 日 (1 日間)
開催地 (国名、都市名、 会場名)	(和文) 日本、東京、聖路加看護大学
	(英文) Japan, Tokyo, St. Luke's College of Nursing
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 堀内成子・母性看護、助産学・教授
	(英文) Shigeko Horiuchi, Maternal Infant Nursing & Midwifery, Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 ( 日本 )	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	
	B.	
	C.	7/7
タンザニア 〈人/人日〉	A.	
	B.	2/2
	C.	
合計 〈人/人日〉	A.	
	B.	2/2
	C.	7/7

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>両機関教員によるカリキュラム検討の成果、ムヒンビリ健康科学大学教員が日本の大学院教育や産科施設の視察を通じて得た知見を生かし、どのように自校の助産修士課程を作り上げていきたいかについて、アクションプランとして発表してもらう。</p> <p>そのアクションプランに対し、アドバイザーボードより評価コメントを受ける。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>①タンザニア側研究者が日本滞在期間に授業や産科施設見学、カリキュラム作成会議、研究者交流を通して得た知見についてまとめ、これからの共同プロジェクトの方向性を確認する重要な機会となる。</p> <p>②カリキュラム作成について、日本滞在期間における協議結果を成果としてまとめることで、参加研究員同士が共通の目標と共同過程を確認できる。</p> <p>③セミナーに参加した研究者や大学院生が、セミナー参加者が先駆的な国際共同プロジェクトについて学ぶことができる。</p> <p>④国際協働や海外での看護・助産教育に経験のあるアドバイザーボードより評価コメントをもらうことで、共同プロジェクトの内容や実現可能性の向上が期待できる。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>聖路加看護大学参加研究員、事務局</p>	
<p>開催経費 分担内容 と概算額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 その他経費（印刷費・交流会費） 金額 100,000 円 謝金（資料作成協力等 1 万円） 10,000 円 ※タンザニア 2 名の招聘費用は R-1 に含まれる。</p>
	<p>タンザニア側</p>	<p>内容 金額</p>

### 10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

#### ① 相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 〈人／人日〉	タンザニア 〈人／人日〉	南アフリカ 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉			1/7 (1/7)	1/7 (1/7)
タンザニア 〈人／人日〉	4/50		1/7	5/57
〈人／人日〉				
合計 〈人／人日〉	4/50		2/14 (1/7)	6/64 (1/7)
② 国内での交流 2/2 人／人日				

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
聖路加看護大学・ 博士研究員・新福 洋子	南アフリカ・ダ ーバン・国際助 産師連盟（I C M）	6/19 ～ 6/23	世界の助産研究者の集う国際助産師連盟 3 年毎大会において、本事業によるアジア・アフリカ助産研究センターの発足を発表する。タンザニアの若手助産研究者育成を目的とした日本・タンザニア共同プロジェクトの概要を明らかにし、世界各国の研究者へ意見を求め、プロジェクトの質的充実を図る。
ムヒンビリ健康科 学大学・ Professor・ Sebalda Leshabari	南アフリカ・ダ ーバン・国際助 産師連盟（I C M）	6/19 ～ 6/23	世界の助産研究者の集う国際助産師連盟 3 年毎大会において、本事業によるアジア・アフリカ助産研究センターの発足を発表する。タンザニアの若手助産研究者育成を目的とした日本・タンザニア共同プロジェクトの概要を明らかにし、世界各国の研究者へ意見を求め、プロジェクトの質的充実を図る。
ムヒンビリ健康科 学大学・ Professor・ Sebalda Leshabari	日本・東京・聖 路加看護大学	6/26 ～ 7/15（研 究者交流 日程 6 日）	聖路加看護大学教員、大学院生との交流。聖路加看護大学で行われる講義を見学・参加する。日本の出産施設を見学し、妊産婦の声を聞く。
ムヒンビリ健康科 学大学・	日本・東京・聖 路加看護大学	7/4 ～ 7/15（研	聖路加看護大学教員、大学院生との交流。聖路加看護大学で行われる講義を

Lecturer・ Columba Mbekenga		究者交流 日程4日)	見学・参加する。日本の出産施設を見学し、妊産婦の声を聞く。
ムヒンビリ健康科 学大学・ Lecturer・ Dickson Mkoka	日本・東京・聖 路加看護大学	9月末～ 10月中旬 (研究者 交流日程 20日)	聖路加看護大学教員、大学院生との交流。聖路加看護大学で行われる講義を見学・参加する。日本の出産施設を見学し、妊産婦の声を聞く。
ムヒンビリ健康科 学大学・Assistant Lecturer・ Lilian Mselle	日本・東京・聖 路加看護大学	9月末～ 10月中旬 (研究者 交流日程 20日)	聖路加看護大学教員、大学院生との交流。聖路加看護大学で行われる講義を見学・参加する。日本の出産施設を見学し、妊産婦の声を聞く。
日本助産師会・理 事・毛利多恵子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「人間性あふれる助産ケア」

#### 【研究交流（日本受入時）参加者】

所属・職名・ 氏名	受入機関	受入時期	用務・目的等
聖路加看護大学・ 教授・堀内成子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「EBNのグループワーク」
聖路加看護大学・ 教授・松谷美和子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「看護教育カリキュラム」
聖路加看護大学・ 准教授・江藤宏美	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「助産カリキュラム」 「EBNのグループワーク」
聖路加看護大学・ 准教授・片岡弥恵 子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「EBNのグループワーク」
聖路加看護大学・ 助教・長松康子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「国際保健」
聖路加看護大学・ 助教・小黒道子	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「女性を中心としたケア」
聖路加看護大学・ 助教・八重ゆかり	日本・東京・聖 路加看護大学	7月初旬、 10月初旬	国際交流プログラム講義 「EBNのグループワーク」

### 1 1. 平成23年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	42,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	2,639,000	
	謝金	1,511,000	文献検索、データ収集、翻訳、資料作成、研究への協力に対するアルバイト謝金など
	備品・消耗品購入費	0	
	その他経費	587,500	ICM 大会参加費@約 75,000 円 × 2名 = 150,000 円を含む
	外国旅費・謝金等に係る消費税	220,500	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		5,500,000	

### 1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	1,142,000	2/14 (1/7)
第2四半期	2,255,000	6/33 (1/2)
第3四半期	1,221,000	3/41
第4四半期	382,000	1/1
合計	5,000,000	12/89 (2/9)